

○三陸北部森林管理署の「採材現地検討会」に出席しました。

青森事務所では毎年、森林管理署等の採材現地検討会等に参加し、技術指導や情報提供などを行うことで、国有林材を有効に活用するよう努めています。

令和3年10月15日(金)に岩手県岩泉町釜津田の上大板屋国有林で開催された「令和3年度 採材現地検討会」に、青森事務所から2名出席してきました。

肌寒い曇り空のなかでの開催でしたが、コロナ感染症予防のためマスクを着用をした上で、林業関係団体や県、町担当者、製材業者、署管内の林業事業体、国有林モニターなど約60名の参加者で開催されました。

会場はカラマツ等を桎積みしている山元土場で実施され、今回の採材検討会ではカラマツ及びホオノキの採材について検討を行いました。

署長挨拶後、署担当者から当該箇所の事業概要とカラマツ、広葉樹の採材について資料を元に説明があり、その後採材の検討に移りました。2本のカラマツとホオノキの計3本について、署管内の生産請負事業体など3班に分かれて採材方法の検討を行い、検討した結果を発表し、岩手県森林組合連合会及び(株)ウツティかわいの担当者から採材にあたっての留意点等を説明して頂きました。

その後、昨年度導入された、iPadにより林道沿いに積まれた丸太を写真撮影するだけで本数や材積を計測できるアプリ「AI丸太検知くん」を紹介・実演し、林業事業体等の参加者にも実際に使用してもらいました。

青森事務所からは、採材検討会の講評として、スギ、カラマツの4m採材の推進や広葉樹の一般材比率の向上、労働安全などについて説明させて頂き、最後に国有林モニターから採材検討会に参加しての感想を話して頂き検討会を終了しました。

青森事務所では今後も採材検討会に積極的に参加し、国有林材の有効な利用に貢献して参りたいと考えています。

